

いつからか、彼の後から時代がついてくる……
あと

若者たちのエポック・メイカー

池田満寿夫。



エーゲ海に
Dedicato al mare Egeo 池田 満寿夫・第一回監督作品
捧ぐ

'79カンヌ映画祭出品記念・4月28日<G・W>特別ロードショー

新宿アカデミー(202)
0141

MASUO IKEDA WORLD

エーゲ海に捧ぐ

Dedicato al mare Egeo

池田 满寿夫・第一回監督作品

ア人という画期的な試みをした。あらゆる愛のかたちを底辺に、一枚の絵として表現されていった。彼の世界が、動く映像（「イマージュ」となったのだ。「あなたにとつてエーゲ海とは？」）へ愛の神々と呼ばれる彼からのメッセージである。



●あなた自身がエーゲ海を持っているという意味…わかりますか？

ニコスは、ギリシャの田舎からローマに出てきた画学生。食事もまらない生活をしていながら、セックスに対する関心だけは、人一倍旺盛だ。彼が住んでいる下宿には、病気の母親と娘のエルダ、そして“白痴”と思われている末娘のリーザの3人が家主として暮している。ニコスと30才を過ぎて熟れたエルダとの肉体関係ができるのに、そんなには時間はかからなかった。

2人は大胆に、台所、階段、テーブルの下、果てはトイレの中でと処かまわらずセックスを貪った。特に食堂の大好きなテーブルの下は、彼らの最も好む場



所だった。そこはまた、リーザがこっそり人形遊びをしたり、眠ったりする、いわば彼女の聖域でもあったので、まだ愛と呼ぶには幼すぎるリーザの嫉妬も始まるのだ。そんな折、有名な画廊主の娘アニータを知った。ニコスの野心が燃えあがる。個展を開けるかもしれない。そのうえ魅力的なアニータが、誘惑して来た。華かなホテルでのセックス……。そしてアニータは、エーゲ海にある彼女の父の別荘へニコスを誘う。アニータの友人の女性カメラマン、グローリアとアニータと3人で戯れるニコス。リーザの熱いまなざしがニコスを追う…そしてエルダからは電話がかかってくる…。



●自分に“自信”的な暗示をかけてやる。それが傑作に通じるものんですよ。イチカバチかそれしかない。1978年早春、芥川賞受賞の自作「エーゲ海に捧ぐ」の映画化に取り組んだ。現在ニューヨークに住み、その世界的版画家として文壇に登場したことでも大きな話題だったが、その後は、その作品を自ら監督として脚本までやってのけることが、はるかに衝撃的な話題を放った。国際的版画家として数多くの輝かしい経歴を持つ、なお貪欲なまでの創作意欲に燃える。時代の先駆者として、現代の勝利者として、現代の若者たちにいま熱い視線として、そのほとばしるエネルギーが日本中の若者たちに伝わっている。



撮影のマリオ・ブルビアーニは、いまさら言う迄もなく、全世界で反響を呼んだ「ひきしお」「最後の晩餐」などの名カメラマン。編集には「ボール・ポジション」「グレーント・ハンティング」などのマリオ・モルラ担当。主演のリーザ役の少女は、百数十人の中から選ばれた11才のサン德拉・ドブリ。アニータを演じるイロナ・スターは、イタリアで人気No.1のラジオDJとして若者たちを虜にしているセクシーな魅力に輝く女優。二コス役のクラウディオ・アリオツティは、やはり数度のオーディションから選ばれた今後の期待が大きい男優だ。エルダを演ずるオルガ・カルラトスは、ギリシャでも有名な女優であり、歌手でもある。いずれもヨーロッパ映画界最高の「戦士」たちである。



●映画は労働である。撮影所は戦場以外の何物でもない。